

いさわ



地域の子どもは地域で守る
ボランティアの子どもを見守る

子どもにも分かりやすい見守り隊のタスキとステッカー

全国的に子どもを巻き込んだ事件が多発している実態を受け、胆沢区内では児童の登下校時の安全を確保するため、小学校区を単位としたボランティアによる「いさわ子ども見まもり隊」が組織されました。3月31日には、新年度のスタートを前に学校との打合せが行われ、タスキや自動車用のステッカーが手渡されました。

また社会福祉法人胆沢やまゆり会では、デイサービスなどの送迎や訪問介護のために26台の車両を運行しており、子どもたちの安全確保にと自主的に見守り隊を結成しています。区内ではたくさんのやさしい目が、子どもたちを見守っています。

まちの話題



核店舗ジャスコ水沢店の撤退により、昨年5月に閉店していたメイプルが4月6日、リニューアルオープンしました。新生メイプルには、食品や衣料、生活雑貨など40の専門店が出店したほか、地階には市民活動や福祉、子育て支援の拠点となる「市民プラザ・マッセ」を開設。利便性、コミュニティ性の高い施設として生まれ変わりました。この日は、開店前から2000人ほどの市民らが長蛇の列をつくる中、午前10時に開店。店内は、開店を待ちわびた多くの買い物客などでにぎわい、各テナントとも活気に満ちあふれていました。メイプルを運営する(株)水沢クロス開発の石川統一社長は「今後13万奥州市にふさわしい施設になるようがんばりたい」と今後の抱負を語っていました。



生まれ変わりにぎわいが戻ったメイプル

待ちに待ったメイプル開店
開店前から2千人が長蛇の列

社会人としての決意新たに 新入社員研修会に26人が参加



真剣な表情で研修を受ける参加者

前沢区内の事業所にこの春入社する新規学卒者を対象とした新入社員研修会は3月23、24日、前沢勤労者研修センターで行われました。前沢町商工会（大内得也会長）と市が主催したこの研修会は、社会人としての心構えやマナーなどを学んでもらおうと行っているもので、ことしは10事業所に入社する26人の新社会人が参加しました。

研修会に先立ち行われた開講式では、大内会長が「皆さんの若い力が職場で大いに発揮されることを期待しています」と激励。参加者は、講師の言葉にメモを取るなど真剣な表情で耳を傾けていました。

まえさわ

みづさわ

鑄物の町に春を告げる祭り 水沢区羽田町で火防祭

市内春祭りのトップを飾る「羽田町火防祭」が3月26日、鑄物の町として知られる水沢区羽田町の本町通りで開かれました。

昭和初期の大火をきっかけとして始まった羽田町火防祭は、地域住民の防火・防災意識の高揚と、地域の活性化のために毎年この時期に行われています。地元厄年連が樽みこしや創作演舞で祭りを盛り上げたほか、鑄物太鼓の演奏や消防団によるまとい振りなどさまざまなイベントを開催。定番となった「羽田ふるさと音頭」には、地区住民と水沢42歳厄年連、合わせて600人以上が参加し、道路いっぱいに踊りを練り広げました。



祭りの会場を練り歩く消防団と屋台

お世話になった校舎に別れ 衣川・南股・北股小学校が閉校



最後の校歌を歌う北股小の子どもたち

ころもがわ

130年を超える歴史を有する衣川小学校、南股小学校、北股小学校一。それぞれの学校が17年度いっぱいその歴史に幕を下ろしました。全国的に少子化が進む中、衣川区も児童数が減少。特に北股小学区、南股小学区ではその傾向が大きく、複式学級での授業が行われていました。適正規模の集団生活がより充実した教育を期待できるとし、3校は閉校。3月23日までにそれぞれ閉校式が行われ、地域とともにあり続けた学校の思い出を振り返りました。18年度から3校は統合。新たに衣川小学校として生まれ変わり、子どもたちは新しい友達と一緒に新学期を迎えました。

半世紀の歴史に幕を下ろす 江刺農協有線放送でお別れイベント

江刺市農協有線放送センターは3月29日、約50年続いた有線放送事業を終えることに伴うお別れイベントを開きました。この日は江刺総合支所市民ラウンジに特設スタジオを設け、公開放送を行いました。司会と同センターの佐藤恵子さんと有線放送OBの門脇生男さんが担当。有線ファンの市民やOBらが多数参加して、さまざまな思い出を披露していました。

有線放送事業は昭和32年に江刺区広瀬で開始され、その後同区内の全域に整備されましたが、近年は加入者の減少や施設の老朽化の問題もあり、3月31日で廃止が決まっていました。



ファンに別れを告げる関係者

えさし